

(様式1-2)

I 学校の概要

全国学力・学習状況調査の結果を活用した検証改善サイクルモデル校事業 高松市立三溪小学校

◆学校の特色

「個を伸ばし、学び合う集団へと成長させる教育活動の推進」を重点目標に掲げ、「『問い』と『振り返り』」を基盤とした主体的・協働的な学びの充実」をテーマに実践化を図っている。次の点をコンセプトとして、子どもたちのより高い自己形成や集団形成をめざしている。

- ①「めあて」と「振り返り」を大切に、内省的思考と実践の積み上げにより、学力向上や豊かな心の育成、健やかな心身の育成の実現を図っている。
- ②相手意識の育みとともに、個々の自己有用感の高揚を図り、学級・学年だけでなく、それを越えた温かい人間関係の構築をめざしている。

II 研究主題等

研究主題 **個を伸ばし、学び合う集団へと成長させる教育活動の推進**
～「問い」と「振り返り」を基盤とした、主体的・協働的な学びの充実～

◆研究主題設定の理由

令和7年度の全国学力・学習状況調査の結果からは、基礎・基本の知識に関しては習得することができているが、問題の意図を汲み取り情報を関連付けて考えを論理的に説明する力に課題が見られた。このことから、「問い」を自分事として捉え、日常の事象と重ねて必要感を持ち、主体的に課題解決に取り組むことができる児童を育てる必要があると考えた。また、「問い」に応じた「振り返り」によって、児童が協働的な学びの成果から何を導き出すかという課題意識を継続し、思考の深化を図ることができる授業改善をめざし、本主題を設定した。

◆研究内容及び方法

- ① 各学年からの提案授業（年間6本）および研究協議の実施による授業改善の日常化
- ② 朝のチャレンジタイムにおける「国語のもと」「数学のもと」「Qubena」を活用したAIドリル学習による基礎学力の定着
- ③ 令和7年～令和8年の全国学力・学習状況調査の結果分析による授業改善の重点化

III 成果の評価計画（検証方法）

授業改善による学力向上の状況について、評価テスト等で児童の解答状況を分析し、成果と課題を整理する。また、児童および保護者アンケートと教員の教育評価で、「わかる」授業や「伸びを実感することができる」授業の充実を図ることができているか分析する。現職教育での研究授業では、学習活動の効果について研究討議や指導をもとに整理し、単元を通じた評価により実効性を確認する。

IV 研究成果の普及方法

研究授業について、中学校区および高松市内の小学校教員に向けて公開し、本校の取り組みをもとに全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた検証改善サイクルの在り方について発信し、それに対する異なる課題からの意見を集約することで、本校の実践から各校での発展的な研究につなぐことができるようにする。

また、令和8年度「香川の教育づくり発表会」において、それまでの研究推進状況について発信し、県内からの参加者と情報交換することにより、各校の実態に応じた取り組みへ広げていく。

令和9年度の「全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業づくり協議会I」においては、令和8年度の年間の成果と課題を発信し、授業改善の手立てについて具体例を提案する。